

講義名	研究演習
講義コード	55024
担当教員	上瀧 真生
開講期・曜日・時限	通年 金曜日 5時限
備考	

ゼミ

上瀧真生ゼミナール

学部

経済学部

学科

経済学科

演習名

上瀧真生ゼミナール(社会保障論)

概要説明

(1) テーマは「キャリアの展開と社会保障」
 キャリアという言葉は、最近では職業人生を意味する言葉として使われることが多い。けれども、ここでは広く人生の展開を意味するものとして考えたい。その焦点は、たしかに一つには職業人生である。しかし、もう一つ、重要な焦点がある。それは家族の形成だ。職業人生と家族の形成。この二つを中心に置きながら、現代日本社会におけるキャリアの展開を考え、さらにそれを支える社会保障のあり方を考えるのがこのゼミナールのテーマだ。
 職業人生と家族の形成を二つの柱としたキャリアの展開は、これから皆さんが直面する課題だ。皆さんはなんとなく両親をはじめとした身近な大人をモデルにこの問題を考えているかもしれない。けれども、この20年間で日本社会におけるキャリア展開のあり方は大きく変化しているようにみえる。長く続いた就職氷河期、フリーター、ニート、転職の増大、晩婚化・非婚化、少子化、等々。変化を感じさせる諸現象がこの間の新聞紙上におどっている。このゼミナールでは、こうした諸現象の実態、背景・要因、これに対応するための社会保障のあり方などについて皆さんと一緒に考えていきたい。このことは、皆さんが自分のキャリアを構想するうえでプラスになると思う。
 なお、この問題にアプローチするにあたって、文献資料をもとに考えるだけでなく、インタビュー等をつうじて、できるだけ実際のキャリア展開の経験をもとに考えるようにしたい

(2) ゼミナールのステップ
 研究演習 (2回生後期)
 テキストの検討を中心にして、現代日本のキャリア展開についての見通し、さらには考えるべき問題や考える方法について学ぶ。同時に、資料の調査や発表、議論の仕方など、ゼミナールのための基本的な技術を身につける。2回生終了時にレポートを作成し、半年間で学んだことを振り返る。
 研究演習 (3回生)
 前期はテキストの検討を続けるとともに、流通科学大学の先輩や身近な人生の先輩のキャリア展開についてインタビュー調査し、その結果をもとに現代日本におけるキャリア展開の実態とそれに対応する社会保障のありかたについて考える。また、これまでの学習をふまえて、各自、卒業研究のテーマを決定する。
 後期は、各自テーマに沿って研究を進め、その進展状況を報告する。3回生終了時に卒業研究の第一次草稿を提出する。
 卒業研究 (4回生)
 3回生時の第一次草稿をもとに卒業研究をしあげる。進路相談も実施。

(3) テキスト
 ゼミ生が決定した後に決定する。現在の3回生が検討したのは以下の文献。
 中西新太郎監修 『フツーを生きぬく進路術 7歳編』青木書店、2005年
 中西新太郎監修 『フツーをつくる仕事・生活術 28歳編』青木書店、2007年

学位

経済学修士

教員よりの要望

毎日、新聞を読むこと。世の中の動きを知っていることは、これからの人生選択にとって大切な土台。10分でもいいから毎日必ず新聞の一面に目を通してほしい。
 できるだけ本を読むこと。本は、自分の直接の経験をはるかに超えて経験の幅を広げる。本を読むことに時間を使ってほしい。
 自分の意見をはっきり述べること。これからの世の中、自分の意見を述べなければ生きていけない。他人の意見をよく聞き、同時に自分の意見をきちんと述べる人間をめざしてほしい。
 活動的であること。積極的、活動的、つまり元気にいるんなことにチャレンジしてほしい。学生時代は短い。充実した学生生活をおくってほしい。
 卒業研究をおこなうこと。卒業研究は学生時代の最大の事業。これをやらないと大学時代は終わられない。

教員英字氏名

Kotaki Masao

研究室

研究棟 2613研究室

最終学歴

京都大学大学院経済学研究科博士後期課程学修退学

主な研究活動・社会活動・研究業績

1990年代後半以降の日本経済の変化の中で企業がどのような雇用・人事戦略を展開したか、そのなかで働く人々の労働と生活がどのように変化したが、を中心に研究している。その成果は以下のとおり。

『資本のもとで働く』、『経済』2015年5月
 『資本主義のしくみ』、『資本論』を基礎に現代資本主義を考える』京都労働者学習協議会、2013年10月
 『誌上研究会・賃金論の現代的展開を考える』(上)(中)(下)、『経済』2007年8月-10月
 『総額人件費管理と労働者生活・現代の賃金と労働者の世代的再生産-』、『経済』2005年2月
 『賃金制度の変化と社会的な収入再分配の課題』、『流通科学大学論集・経済・経営情報編』第12巻第3号、2004年3月

主な卒業論文のタイトル

『子どもの貧困とその対策』
 『世代間格差と将来の年金について』
 『聖地巡礼』が起す経済効果』
 『学生アルバイトの実態について』
 『学生アルバイトの実際』 流通科学大学と全国調査の比較』
 『介護職の現状と今後について』
 『過疎化による弊害とその対策』
 『児童虐待について』
 『仕事における「働く」という意味』

趣味・特技

映画鑑賞。京都の小さな映画館でマイナーな映画を見るのが好き。昨年夏の終わりには、「タクシー運転手」と「1987、ある闘いの真実」という韓国映画2本立てを見て、自分の生き方を反省した。
 歌うこと。通勤路上や帰宅路上、歌いながら歩いている。ちょっとあやしい人と思われているかもしれない。
 お酒。夜のおいしいお酒は大切なお友だち。

所属

経済学部 経済学科

所属学会

社会政策学会、経済理論学会

専門分野

日本の社会保障、生活問題、労働問題

選考方法

基本的に定員までは「来る人拒まず」。ただし、「ゼミ運営の主体は学生だ」という意識をもって積極的にゼミで自分の力を発揮しようとする人に来てほしい。
 選考が必要な場合は個別ガイダンスでの面接による。
 3回生時の編入についても同様。

担当科目

社会保障論、経済学入門、社会保障論、日本経済論

備考

【ゼミ生からのメッセージ】
 上瀧ゼミのここが良い!

評価方法

研究演習：日常のゼミ活動とかんたんレポートで評価する。
 研究演習：日常のゼミ活動と卒業論文をみすえた3年次レポートで評価する。
 卒業研究：卒業論文で評価する。